

織ることは生きること — 沖縄の織りと女性たちのナラティブ

沖縄は伝統工芸の盛んな地として知られており、とりわけ織物の種類の多さは目を見張るものがあります。今回の展示では、そのなかから、久米島紬と八重山上布を取り上げます。

絹織物である久米島紬と苧麻を用いる自然布の八重山上布は、使用する糸の種類や染料の一部に違いがありますが、どちらにも、明治の半ばまで、租税（貢納布）として織ることを強制されてきた過酷な歴史があります。そして、その担い手は女性たちでした。その後、これらの織物は産業化のなかで、島の経済の一端を担い、その技法を発展させ、今日では着物愛好家垂涎の織物となっています。

作品とともに、作り手のナラティブ（語り、語る行為）を紹介します。伸びやかで力強い言葉は、織ることと女性たちのアイデンティティ、誇り、表現することとの関わり、まさに「織ることは生きること」を語っています。

2026.9.26 sat.~10.16 fri.

※日曜休廊・10.12（月・祝）開廊

10:00~18:00 ※最終日~17:00

青山学院大学 ジェンダー研究センターギャラリー

オープニングレクチャー

2026.9.26（土）13:00~14:00 スクーンメーカー記念館

石垣市織物事業協同組合理事長 平良佳子氏

石垣市生まれ、石垣市育ち。1986年石垣市織物研修生として八重山上布等の技法を学びはじめる。2014年より石垣市織物事業協同組合理事長。

会場：青山学院大学 ジェンダー研究センターギャラリー
青山キャンパス スクーンメーカー記念館 1階
東京都渋谷区渋谷 4-4-25



ギャラリーへの
アクセス MAP は
こちらのページに
掲載しております。

主催：青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター

協力：石垣市織物事業協同組合／久米島紬事業協同組合／つどう つながる つむぎだすラボ